

Ⅰ 介護と緩和ケア

「緩和ケア」とは、患者さんのからだと心の“つらさ”を和らげるためのケアです。“がん”“終末期”というと、まず“痛み”を思い浮かべ心配します。

緩和ケアというと“痛み”をとることが一番の目標と考える人も多いのですが、終末期の患者さんに共通しているのは、がんが進んでくることで起こる全身の力の低下です。運動や家事ができなくなり、介護が必要になることです。

実は、がん患者さんにとって、“痛み”よりも全身の力が低下して、“できていた事ができなくなる”ことの方が重大な問題です。そして、介護が必要になる時期が急に訪れることで、患者さんのつらさはいっそう深まります。そのため、がん患者さんのからだの状態、気持ちのあり方を理解した上で介護することが大切になります。

介護のあり方は患者さんの状況に大きな影響があります。患者さんは心地よさを感じられれば、心が穏やかになり、からだのつらさも和らぎます。

患者さんが自身でやろうとしていることを見守り、大変なところを手伝うことができれば、今を精一杯生きていると思えるでしょう。生きている限り尊重され存在を肯定される療養生活が送れることで、病気が進んでも、からだのつらさや心のつらさが和らぎます。

緩和ケアの目標は、患者さんの生活の質（QOL）の改善です。介護は、今までのような自立した生活ができなくなった患者さんに対して、生活を支え、生きることを支えるという最も重要な役割を担っています。